市区町村名	奈良県生駒市	担当部署	図書館
		電話番号	0743-75-5000
		所属メール	library@city.ikoma.lg.jp

1　取組事例名

誰にでも開かれた図書館へ　「代読」で知的障がい者の読書をサポート

2　取組期間

令和３年８月～（継続中）

3　取組概要

知的障がい者の読書を支援する取組。月に１度の館内整理日（休館日）に、図書館を障がい者団体向けに開放し、貸し切り状態でご利用いただく。あわせてボランティアによる１対１の「代読」という方法で知的障がい者の読書をサポートしたり、自由に本を閲覧いただいたり、絵本の読み聞かせを行ったりする。

4　背景・目的

これまで図書館界では、知的障がい者は文字の理解が困難で読書が苦手という先入観や、対応や配慮の仕方の難しさ、障がい特性によってニーズの発信が弱く、その意見が届きにくいこと等から、知的障がい者への読書支援は進んでいなかった。そこで当館では、全国に先駆けて知的障がい者への読書支援について、新たなサービスに取り組むことにした。

図書館という市民にとって身近な公共施設が知的障がい者の社会参画の窓口となることで、市民の障がい者理解を深め、インクルーシブな社会づくりにつなげることも目的としている。

５　取組の具体的内容

毎月第１金曜日の館内整理日（休館日）に、図書館を障がい者団体や放課後等デイサービス向けに各団体1時間程度開放し、貸し切り状態で利用していただく。あわせてボランティアによる１対１の「代読」という方法で知的障がい者の方の読書をサポートしたり、自由に本を閲覧いただいたり、絵本の読み聞かせを行ったりする。

「代読」とは、読み手が選んだ本を聞き手が聞く「読み聞かせ」とは違い、聞き手の主体性を尊重し、聞き手が読んでほしい本を、読み手と聞き手がペアになって楽しむ活動である。

代読は図書館のボランティア養成講座を修了した読書サポートボランティアが行う。読書サポートボランティアには、知的障がいのある聞き手が「この本読んで」と言える関係を積極的に作り、１対１でコミュニケーションを取りながら、わかりやすく読むことが求められており、養成講座は本の読み方だけでなく、知的障がい者の特性なども座学と実習で学ぶプログラムになっている。

現在、代読を含んだ図書館利用２団体、資料閲覧のみの図書館利用５団体と、計７つの障がい者団体または放課後等デイサービスの利用がある。

	当日の流れ（本館の１施設での実施例）
10:25	ボランティア集合 （読み聞かせ担当に当たっているボランティアは9:45に集合し、読み聞かせ本の選定と読み聞かせの練習を行う）
10:30	施設から知的障がい者と職員が図書館に到着。 特別な配慮が必要な利用者がいないか、職員に聞き取り。 代読を希望する人(毎回約９人)と、希望しない人に分かれる。
10：30 ～11:10	【代読を希望しない人】 自由に館内で過ごし、思い思いの場所で好きな本を楽しむ。 【代読希望者】 読書サポートボランティアとその日のペアリングを決める。 代読するペアは本棚の間をいっしょに歩きながら、多くの本の中から読みたい本を探し、本が決まったら所定の机と椅子に１対１で横並びに座って代読。 利用者の特性により、本を媒介としたお喋りを楽しむように過ごす方や、ひたすらボランティアの音読に耳を傾ける方などがおり、それぞれ利用者の希望に応じて対応する。
11:10 ～11:25	読み聞かせの時間。 希望者で集まって、ボランティアによる絵本の読み聞かせを３冊分聞く。 代読と異なり、１人が前で読み上げるのを全員で聞く形式をとる。
11:25 ～11:30	利用者がそれぞれ借りたい本の貸し出し手続きを行い、解散。施設へ戻る。
11：30 ～11：40	ボランティア間で、活動の中で気になったことや感想などを共有する。 次回の読みきかせ担当者を決めて解散。

６　特徴（独自性・新規性・工夫した点）

読書バリアフリー法の成立により、図書館における障がい者サービスは広がりを見せているが、視覚障がい者向けのサービスが主となっており、知的障がい者向けに特化したサービスが進んでいない中、独自の取組として開始した。

生駒市図書館のこの活動は、市内の障がい者団体と密に結びつき、協力関係を結んでいることを強みとしている。先方に毎月図書館を利用していただくだけでなく、希望に応じて障がい者施設に赴き代読活動を行ったり、ボランティア育成時には施設利用者に実践練習の相手になっていただいたりと、相互協力をしている。

７　取組の効果・費用

【取組の効果】

・想定以上の人気事業となり、知的障がい者に潜在的な強い読書欲求があること、全国的にこうした取り組みが広がることの重要性が分かった。

・ボランティアは障がい者との交流を楽しんでおり、「以前は電車等で奇声をあげている人を見るとつい距離をとっていたが、活動をはじめてからは、障がいのあることに捕らわれない、優しい視線を持てるようになった。」といった声もあがるなど、活動が障がい者理解につながっており、インクルーシブな社会づくりに貢献している。障がい者施設の職員からも、「地域の中に溶け込み、互いに支え合って生きていくことを目指しているため、図書館との協働は、知的障がい者のことを知ってもらう機会となり、障がいを持つ人の生活がより豊かなものになると思う。」といった声がある。

・市民側と施設側双方で知的障がい者が図書館を利用することへの理解が進み、最初は１つの障がい者施設の利用から始まったが、それが軌道に乗って当事者や施設からの評判が広がったことにより、他の障がい者支援施設や放課後等デイサービスからも図書館利用の申し込みがあり、館内整理日のあらゆる時間帯で複数団体向けに図書館開放を実施する運びとなった。

【費用】98,000 円（養成講座実施費用）

８　取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

知的障がい者への読書支援を開始するにあたり、図書館単独で進めていくことは困難であったため、図書館とともに活動してもらえる障がい者支援施設を探すことからのスタートととなった。

市役所の担当部署、障がい者団体の代表等に相談したが、施設側の事情は厳しく、限られた時間・人員・予算の中で一歩踏み出そうと思ってくださるところはなかなか現れなかった。普段、図書館は施設との接点がないため、「初めまして」の関係では理解し信頼してもらうのは難しいと痛感した。

その中で、ようやく一つの施設と、文字通り膝を突き合わせてじっくりお互いの思いを語りあう機会があり、その結果、図書館への協力を快諾いただくことができた。

また、この話し合いの中で、施設には本が好きな知的障がい者は多く、また地域の図書館を利用することが社会参加の場にもなるということで、図書館の理解があるならば、すぐにでも図書館利用をしたいという思いがあるとわかり、意義深い機会となった。

９　今後の予定・構想

今後は、現在の活動のベースとなっている館内整理日の図書館開放だけでなく、開館日にも利用できるような環境作りを、ハード面・ソフト面ともに改善し、サービス内容を充実させたいと考えている。それに加え、図書館に来てもらうだけでなく、施設にこちらから赴き、代読を実施する出張代読の機会を増やしていく。（現在も年に 1～2 回実施）

また、全国の図書館にこうした活動を広めるべく、市外・県外へ発信していく取り組みを行いたい。その一環として令和 5 年には、奈良県図書館協会公共図書館部会の研修テーマとして知的障がい者への読書サポートを学ぶよう推薦し、県下の図書館職員向け研修会の実施に繋げた。

１０　他団体へのアドバイス

市内の障がい者団体と結びつき相互協力の関係性を結ぶことが肝要であり、普段から様々な場所と関係性を持っておくことが大切となる。

知的障がい者へのこうした取り組みはまだ全国的に進んでいない。図書館という施設が、本の楽しみを通して、障がいを持つ人・持たない人の相互理解、共生の場として地域の中で機能するよう、この取り組みが生駒市以外でも広がっていくことを願っている。

１１　取組について記載したホームページ